

2024_0725「乳房雲と雷雨（動画）」日々の理科 3640号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

.

東京は梅雨明けしたとは言え、毎日のように雷雨に見舞われています。自分がいる場所が雷雲（積乱雲）の真下に入ると、夜のように暗くなり、急に涼しい風が吹いてきます。雷雲の上部から地上に向かって吹き付ける「ダウンバースト」の影響です。

電光（稲妻）は数十 km 先からも見えますが、雷鳴（ゴロゴロ音）は電光の実体から 5 km 程度までしか聞こえません。雷鳴が聞こえたら、雷雲が相当に近づいていると考えて間違いありません。更に雲底の様子にも顕著な変化が見られます。雲の底面が波打つように垂れ下がり、不気味な模様になるのです。これは「乳房雲」といって、これが現れるとあと数分で降雨となることが多いです。

動画には画面左上（西側）から乳房雲が広がり、何度かの電光のあと、降雨が始まる様子が写っています。

(2024年7月下旬／文京区・お茶の水女子大学構内)

